

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691700011		
法人名	社会福祉法人 博友会		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	徳島県吉野川市山川町祇園51番地2		
自己評価作成日	令和4年7月19日	評価結果市町村受理日	令和3年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族に安心して頂けるようサービス提供の統一化を図り、質の高さを常に追求している。ご家族の雰囲気をお借りして頂けるよう食事については、3食手作りでやっている。季節の味を楽しんで頂くため行事食等もやっている。職員とご利用者が一緒に作る時もある。中庭の畑にご利用者と苗木を植え育てている。(デコポン、温州ミカン、ブルーベリー、スタチ、レモン、山椒)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国産杉を使用した木造の建物であり、靴下で生活することができるなど、自宅と同じ環境で生活できるよう設計している。“地域と関わりを持ちながら、その人らしい家庭生活が送れるように支援しましょう”という理念を掲げ、事業所自体が地域の一人として関わりつつ、利用者本位の支援に取り組んでいる。敷地内には、同一法人が運営する併設の他サービス事業所があり、日常的に利用者間の交流を図ったり、合同の研修や防災訓練を実施したりして、連携・協力している。新型コロナウイルス感染症の流行にともない、外出等に制限があるなかで、近隣の散歩や敷地内での果物の栽培など、利用者が閉塞感なく生活することができるよう工夫している。事業所内での意見交換も積極的に行い、感染症の流行下でも、利用者が家庭的な生活を送ることができるよう、協議・検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭の雰囲気に近い環境作り、ご自分の残存能力を活かしてできる限り行っていただく。安心して頂けるよう援助を行っている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。事業所内に理念を掲示し、職員間での周知を図っている。感染症(コロナ等)の流行下においても、利用者が地域と関わりつつ生活できるよう心がけるなど、理念を日ごろの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域への清掃活動に参加を行っている。避難訓練で地元の方々と交流を図る機会をもっている。 (現状は新型コロナウイルス感染予防のため中止中)	事業所では、季節ごとの行事に地域の参加を得たり、近隣学生の職場体験を受け入れたりして、地域との交流を図っている。感染症の流行下においては、地域の理・美容院の来訪を受入れるなど、可能な範囲で交流の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌等で認知症の方々に対する接し方等を記載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年1回ご家族に対しアンケートを行っている。集計結果は文書にて発送する。ご意見をいただいたことについては、職員ミーティングで検討する。	2か月に1回、関係機関や地域の代表等の出席を得て、運営推進会議を開催していた。現在は、感染症の流行に伴い、定例の会議を開催することができていない。	今後は、電話や書面等を活用するなど、感染症の流行下でも可能な会議の開催方法について検討することが望まれる。再度、運営推進会議の意義・役割について確認・共有し、サービスの質の向上に努めることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	通常なら運営推進会議には出席していたが、市の取り組み等についても説明をいただいているが、現状は新型コロナウイルス感染予防のため運営推進会議については中止している。	事業所では、定期的に、市の担当窓口を訪問し、事業実績等を報告している。感染症の流行下においては、電話や書類の郵送等により、状況を報告し、意見を得ている。また、地域包括支援センターとも連携を図るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回身体拘束等適正化委員会を開き廃止に向け取り組んでいる。年2回法人内で研修会を行っている。外部の研修会にも参加をして、知識を向上させている。	事業所では、毎月、身体拘束廃止委員会を開催し、拘束を行わないケアに向けて、職員間での共有化を図っている。定期的に研修会も開催している。日中は玄関を開放し、利用者にとって閉塞感のない暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回身体拘束適正化委員会と併行して行っている。法人年1回法人の職員全員を対象とした研修会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用い、ご家族に対し説明を行う。承認後は署名・捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会は禁止している。年1回のアンケートにてご意見をいただくか、お電話にていただくようにしている。意見の内容により職員間のミーティングで検討。	職員は、日ごろから、利用者が意見や要望等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。家族等については、毎月の手紙や電話による報告などにより、意見等を聞き取っている。出された意見をもとに、アンケートの内容を見直すなど、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署別ミーティング(2か月に1回)毎日の申し送り、月1回の主務者会で職員からの意見等を聞く機会が設けられている。	管理者は、日ごろから、職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。定期的に、職員一人ひとりと話しあう機会も設けている。出された意見をもとに、勤務形態等の改善を計画するなど、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が自己の長期・短期目標を設定し、6か月ごとに達成度を確認しながら働けるようにしている。年1回だが、自己申告を職員が行い、可能な限り、意見を反映するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標カードを作成し、職員を段階的に育成また法人全体で行う研修会に参加を促している。資格取得に向け有資格者がアドバイスを行う機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は新型コロナウイルス感染予防のため、中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご利用者・ご家族と面接を行い、生活状況を聞き、ホームでのくらしについて説明・同意を得る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学をしていただき、一緒に過ごす時間を作っている。ご利用者並びにご家族と面接を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接は担当介護支援専門員と同行し伺う。状況により主治医と相談し、利用が可能か否かを判断していただくときもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者のペースで生活ができるよう援助を行っている。家事については、職員と一緒にやるようにしている。また、対話の中で昔のことを教えて頂くようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話にて常にご家族のご希望を聞きながら一緒に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状は新型コロナウイルス感染予防のため、外出行事は自粛であり、事業所の行事についても縮小している。	事業所では、利用者の馴染みの人や場所との関係継続に努めている。感染症の流行下においては、電話やSNS等を活用しつつ、家族との面会を実施している。また、通院時に家族等の協力を得たり、地域の理・美容院の来訪を受けたりして、関係性が途切れることのないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にご利用者同士の関係に気を配る。職員が中に入り、声かけを行って参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了者に対しては、介護支援専門員に情報提供を行い、必要な介護サービスや情報を得られるような体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からご利用者との関わりの中で意向の把握に努めている。各利用者に担当制を導入している。ミーティングや介護記録等を活用して全職員が共有できるようにしている。意思疎通が困難な方も本人本位を意識し対応を行っている。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、思いや意向等の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者には、声のかけ方等を配慮しつつ、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接を行い、入居状況調査票にて情報を記載し、それを職員に回覧し周知徹底をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護サービス計画書を作成する際にケース記録及び介護記録を参考にしたり、家族からも現状に対するご意見を頂き総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートを活用し、利用者の暮らしの中の課題を把握している毎月のモニタリング・ケアカンファレンスを実施。ご本人・ご家族のご意見をいただき、よりよい暮らしの実現のため介護計画を作成している。	事業所では、利用者や家族等の意見を踏まえた介護計画を作成している。必要に応じて、医師や専門職等からも意見を得ている。定期的に、計画を見直すとともに、随時、本人の心身状況にあわせて見直すなど、利用者の現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄等の記録は介護記録に記載されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	徘徊などはなるべくご本人に付き添って散歩をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設事業所と合同で防災訓練等を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用前の段階で医療機関の受診については同意を得ている。訪問診療(2週間に1回)で依頼している。その他科の専門医や医療機関の受診を支援している。夜間の緊急態勢も整備している。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医を受診する際は、職員が同行し、結果を家族等に伝えている。協力医療機関と連携を図り、夜間や緊急時に対応可能な体制を整備し、利用者が適切な医療を受けられるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時主治医に同行した看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関へ事業所での生活などの情報提供を行っている。定期的に様子をお聞きし主治医・看護師に経過を聞きながら退院が近づけば受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に至った場合の事業所の方針を説明し同意を得ている。心身状況の変化に応じて家族・医師と相談し、法人と共有している。またホームで終末期を支援することができるよう職員研修や話し合いの機会を設けている。	事業所では、契約時の段階で、重度化や終末期の指針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。本人の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を踏まえつつ、関係機関と連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。また、定期的に、看取り等に関する研修会も開催し、サービスの質の向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リモートでの研修となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。現状は自治会の方々及び地元消防団の参加はなし。法人では防災対策委員会を設置し、地震等の対応について検討する。	年2回、消防署等の協力を得て、日中・夜間における避難訓練を実施している。職員が地域の消防団に加入し、地域との連携体制を築いている。また、備蓄倉庫を活用し、近隣住民の分も含めて備蓄品を多く整備するなど、災害時の福祉拠点として体制を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護を徹底している。法人内職員全員を対象とした研修を年1回行っている。普段からプライバシーの保護に努めている。	事業所では、定期的に、プライバシー等に関する勉強会を開催し、職員に周知・理解を図っている。職員は、利用者一人ひとりのプライバシーを損ねることのないよう、声かけの方法や内容について配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に希望等をお聞きしながら対応している。理解が困難な方には、家族とコミュニケーションをはかりながら対応方法も決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者本位のサービス提供を常に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力を依頼し、理美容へ出かける支援を行っている。ご家族のご希望で定期的に来られる理容師に施設で散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎食手作りでやっている。家庭的な雰囲気を出すため包丁の音や調理時のにおいなどを味わっていただくようにしている。	食事は、毎食、事業所内で調理したものを提供している。敷地内で、果物や薬味等を育て、利用者と一緒に収穫し、献立に加えるなど、食事を楽しむことができるよう工夫している。また、野菜の皮むきやテーブル拭きなども一緒に行い、一人ひとりの生きがいに繋がるよう、支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取については、個々の介護記録に記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、週2回義歯消毒を行っている。(ご希望により、毎日でも可能)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の状況やご希望により、布パンツを使用している。各ご利用者の排尿間隔を把握し各自にあった排泄サービスを行っている。	事業所では、チェックシートを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。日中は、できる限りトイレで排泄することができるよう、誘導支援を行っている。職員は、さりげない声かけを心がけ、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む献立を取り入れている。朝食時は排便を促すような食材で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はご利用者の希望にそって実施している。基本的に曜日や時間などは設けず。概ねは決めているが、現状は特に問題はない。	事業所では、週2～3回は入浴することができるよう支援している。利用者一人ひとりの希望を尊重し、羞恥心や不安感に配慮している。季節にあわせて、ゆず湯を行うなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の睡眠の妨げにならないように吸収力の高いパットを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者ごとの服薬の目的や副作用、用法に努め個別に管理している。服薬時は必ず、名前と袋があっているかどうか確認をしている。他の職員と双方で確認を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の精神状態や身体状況により、日記等をつけてもらったり、趣味活動や運動等を支援している。また本人の能力に応じ、日常生活での役割を担っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、現在は中止。	事業所では、利用者の希望にそった外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、中庭に出る機会を増やしつつ、果物を栽培したり、池や花を眺めたりして、外気を感じることができるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族に依頼している。もしご利用者が持たれるときはご本人が管理できる範囲でお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の要望により、電話をかける支援を行っている。また毎月担当職員より各ご家族に対し、状況報告を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の環境に近づけるため、靴を脱いだ生活を行っている。	事業所は木造であり、杉の香りや温かさを感じることができる。共用空間は、自宅と同じように靴下で生活できるよう整備している。畳や掘りごたつを設置し、利用者一人ひとりが好きな場所で過ごすことができるようにしている。また、利用者と一緒に掃除をするなど、居心地良く過ごすことができる空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、約4畳半のスペースを確保している。自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が使い慣れた物品を持ち込まれている。長年続けている趣味を居室で楽しむことができるよう職員から声かけを行っている。	居室は、すべて和室であり、利用者一人ひとりの心身状況や好みにあわせて、ベッドと布団を選択できるようにしている。本人の使い慣れた家具や家電、趣味のものを持ち込んでもらうことで、その人らしく過ごすことができる空間づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力が活かせるような体制を整えている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭の雰囲気に近い環境作り、ご自分の残存能力を活かしてできる限り行っていただく。安心して頂けるよう援助を行っている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への清掃活動に参加を行っている。避難訓練で地元の方々と交流を図る機会をもっている。 (現状は新型コロナウイルス感染予防のため中止中)			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌等で認知症の方々に対する接し方等を記載している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年1回ご家族に対しアンケートを行っている。集計結果は文書にて発送する。ご意見をいただいたことについては、職員ミーティングで検討する。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	通常なら運営推進会議には出席していただき、市の取り組み等についても説明をしていただいているが、現状は新型コロナウイルス感染予防のため運営推進会議については中止している。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回身体拘束等適正化委員会を開き廃止に向け取り組んでいる。年2回法人内で研修会を行っている。外部の研修会にも参加をして、知識を向上させている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回身体拘束適正化委員会と併行して行っている。法人年1回法人の職員全員を対象とした研修会を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在していない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用い、ご家族に対し説明を行う。承認後は署名・捺印をいただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会は禁止している。年1回のアンケートにてご意見をいただくか、お電話にていただくようにしている。意見の内容により職員間のミーティングで検討。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署別ミーティング(2か月に1回)毎日の申し送り、月1回の主務者会で職員からの意見等を聞く機会が設けられている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が自己の長期・短期目標を設定し、6か月ごとに達成度を確認しながら働けるようにしている。年1回だが、自己申告を職員が行い、可能な限り、意見を反映するようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標カードを作成し、職員を段階的に育成また法人全体で行う研修会に参加を促している。資格取得に向け有資格者がアドバイスを行う機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は新型コロナウイルス感染予防のため、中止している。			

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご利用者・ご家族と面接を行い、生活状況を聞き、ホームでのくらしについて説明・同意を得る。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学をしていただき、一緒に過ごす時間を作っている。ご利用者並びにご家族と面接を行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接は担当介護支援専門員と同行し伺う。状況により主治医と相談し、利用が可能か否かを判断していただくときもある。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者のペースで生活ができるよう援助を行っている。家事については、職員と一緒にを行うようにしている。また、対話の中で昔のことを教えて頂くようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話にて常にご家族のご希望を聞きながら一緒に支えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状は新型コロナウイルス感染予防のため、外出行事は自粛であり、事業所の行事についても縮小している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にご利用者同士の関係に気を配る。職員が中に入り、声かけを行って参加を促している。			

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了者に対しては、介護支援専門員に情報提供を行い、必要な介護サービスや情報を得られるような体制を整えている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からご利用者との関わりの中で意向の把握に努めている。各利用者担当制を導入している。ミーティングや介護記録等を活用して全職員が共有できるようにしている。意思疎通が困難な方も本人本位を意識し対応を行っている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接を行い、入居状況調査票にて情報を記載し、それを職員に回覧し周知徹底をしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護サービス計画書を作成する際にケース記録及び介護記録を参考にしたり、家族からも現状に対するご意見を頂き総合的に把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートを活用し、利用者の暮らしの中の課題を把握している毎月のモニタリング・ケアカンファレンスを実施。ご本人・ご家族のご意見をいただき、よりよい暮らしの実現のため介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄等の記録は介護記録に記載されている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	徘徊などはなるべくご本人に付き添って散歩をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設事業所と合同で防災訓練等を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用前の段階で医療機関の受診については同意を得ている。訪問診療(2週間に1回)で依頼している。その他科の専門医や医療機関の受診を支援している。夜間の緊急態勢も整備している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時主治医に同行した看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関へ事業所での生活などの情報提供を行っている。定期的に様子をお聞きし主治医・看護師に経過を聞きながら退院が近づけば受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に至った場合の事業所の方針を説明し同意を得ている。心身状況の変化に応じて家族・医師と相談し、法人と共有している。またホームで終末期を支援することができるよう職員研修や話し合いの機会を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リモートでの研修となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。現状は自治会の方々及び地元消防団の参加はなし。法人では防災対策委員会を設置し、地震等の対応について検討する。		

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護を徹底している。法人内職員全員を対象とした研修を年1回行っている。普段からプライバシーの保護に努めている。					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に希望等をお聞きしながら対応している。理解が困難な方には、家族とコミュニケーションをはかりながら対応方法も決めている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者本位のサービス提供を常に心がけている。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力を依頼し、理美容へ出かける支援を行っている。ご家族のご希望で定期的に来られる理容師に施設で散髪を行っている。					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎食手作りで行っている。家庭的な雰囲気を出すため包丁の音や調理時のおいなどを味わっていただくようにしている。					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取については、個々の介護記録に記載している。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、週2回義歯消毒を行っている。(ご希望により、毎日でも可能)					

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の状況やご希望により、布パンツを使用している。各ご利用者の排尿間隔を把握し各自にあった排泄サービスを行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む献立を取り入れている。朝食時は排便を促すような食材で対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はご利用者の希望にそって実施している。基本的に曜日や時間などは設けず。概ねは決めてはいるが、現状は特に問題はない。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の睡眠の妨げにならないように吸収力の高いパットを使用している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者ごとの服薬の目的や副作用、用法に努め個別に管理している。服薬時は必ず、名前と袋があっているかどうか確認をしている。他の職員と双方で確認を行うようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の精神状態や身体状況により、日記等をつけてもらったり、趣味活動や運動等を支援している。また本人の能力に応じ、日常生活での役割を担っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、現在は中止。			

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族に依頼している。もしご利用者が持たれるときはご本人が管理できる範囲でお願いしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の要望により、電話をかける支援を行っている。また毎月担当職員より各ご家族に対し、状況報告を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の環境に近づけるため、靴を脱いだ生活を行っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、約4畳半のスペースを確保している。自由に過ごしていただいている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が使い慣れた物品を持ち込まれている。長年続けている趣味を居室で楽しむことができるよう職員から声かけを行ったりしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力が活かせるような体制を整えている。			